

本県では、地域の特性を生かした多様な農業が展開されています。農業でしっかり稼げる仕組みをつくることで産地が活性化し、ひいては地域のにぎわいの創出にもつながっていきます。

八斗木地区の取り組み（雲仙市国見町）

農地の基盤整備により生産規模が拡大

雲仙市東部に位置する八斗木地区は、雲仙ブランド「八斗木白葱」の産地です。

平成23年度から29年度にかけて、区画整理やかんがい施設（農地に水を供給する施設）の整備を行い、経営規模の拡大や省力化に取り組み、年間を通して高品質の白葱を安定的に生産できるようになりました。

その結果、整備前に比べて、担い手一人当たりの所得は大幅に増加しました。

※八斗木地区の将来を担う中心的な農家のこと

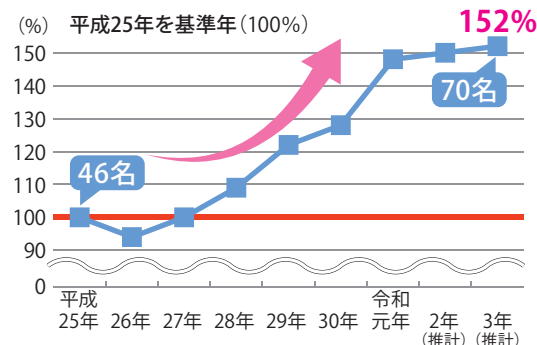
後継者や子どもの増加

“稼げる農業”を実現したことにより、地区外に転出していた若者が八斗木地区に戻ってきたり、地元に残って家業を継ぐ若者も増えていたりしています。

これに伴い、八斗木小学校の児童数も増加。産地の活性化が地域のにぎわいの創出にもつながっている優良事例として注目を集めています。



八斗木小学校の児童数の推移



稼げる農業の事例を県内各地に
どんどん広げていくけん！



祝 雲仙ブロッコリー部会が農林水産祭で天皇杯を受賞!!

令和元年度農林水産祭で、JA島原雲仙の「雲仙ブロッコリー部会」が栄えある天皇杯に輝きました。この天皇杯は、全国から選抜された優れた農林水産業の事業者へ贈られる最高の賞です。

部会では、農地の基盤整備や機械化を積極的に進め、氷詰め出荷によりブロッコリーの鮮度を保持することで、関西や関東方面へ販路を拡大。まさに“稼げる農業”を実現し、多くの後継者も育てています。

部会長の本多幸成さんは、「昨年度は目標の販売額7億円を達成しました。今後は販売額10億円を目指し、他の部会から目標とされるよう、立ち止まることなく頑張っていきます」と力強く語ってくれました。



特集 special issue

魅力あふれる農林業を 次の世代へ

離島や半島が多い本県において、農林業は地域を支える大切な産業です。

県では、生産・流通・販売対策を軸としたしっかり稼ぐ仕組みを構築し、農林業・農山村全体の所得の向上を図ることで、職業として選ばれる農林業を目指しています。



主な農産物の産出額と全国順位 （平成29年）

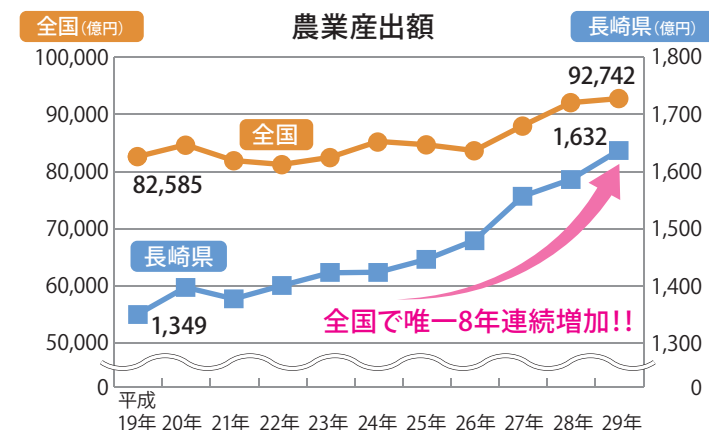
品目名	産出額	全国順位
びわ	11億円	1位
ばれいしょ	110億円	3位
にんじん	43億円	4位
たまねぎ	31億円	4位
はくさい	24億円	4位
いちご	101億円	5位
きく	34億円	5位
みかん	129億円	6位
レタス	58億円	6位
肉用牛	241億円	7位

出典：農林水産省「生産農業所得統計」



本県の農業産出額
農林業に携わる皆さんの創意工夫と努力の積み重ねにより、本県の農業産出額は年々増加しています。平成29年の農業産出額は1,632億円で、全国22位となっています。

全国トップクラスの農産物
本県には産出額が全国トップ10に入る農産物が数多くあります。全国1位のびわをはじめ、3位のばれいしょや4位のにんじん、たまねぎ、はくさいなど、さまざまな農産物が全国トップクラスとなっています。



農山村 ご存じですか？農林業・農山村の多様な役割

農林業や農山村は、私たちの「食」を支え、農林産物を生産するだけでなく、県土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、美しい風景の形成、文化の継承などさまざまな役割を担っています。

伝統文化を守る



●農山村では、祭りや行事が暮らしに溶け込み、大切に受け継がれています。

美しい風景をつくる



●農林業の営みと里山や水辺が一体となって農山村ならではの風景をつくっています。

大気や水質の浄化



豊かな生態系

癒しや安らぎの場

土砂崩れを防ぐ



●森林は、しっかりと張り巡らされた樹木の根で山崩れを防いでくれています。

一時的に水をため、洪水を防ぐ



●田んぼや畑の土は、洪水を防ぐダムのような役割も果たしています。

河川の流れを安定させ、地下水をつくる



●森林や田んぼや畑にたまった水は、ゆっくりと時間をかけて土に染み込み、河川や地下水に変わっていきます。

農林業が維持されているから、私たちは安心して暮らせるんだね！



最先端

スマート農業の普及を目指します

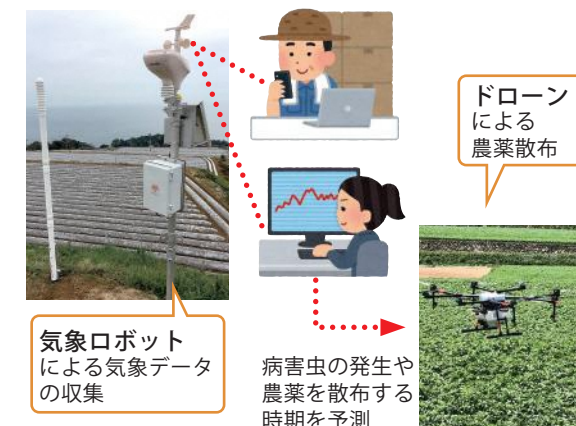
ロボットやICT(情報通信技術)などの先進技術を駆使し、超省力で高品質な生産を可能にするスマート農業。ドローンによる農薬散布や自動走行トラクターによる農作業は、すでに実用化が始まっており、新たな技術で誰もが取り組みやすい農業として期待されています。

県では、スマート農業の普及に向けた取り組みを農家の皆さんとともに進めています。

気象ロボットやドローンの導入

●気象ロボットが集めた温度や湿度などのデータを基に、病害虫の発生を予測。ドローンを使って上空から農薬を散布します。

➡農作業の省力化と安定生産につながります。



気象ロボットによる気象データの収集

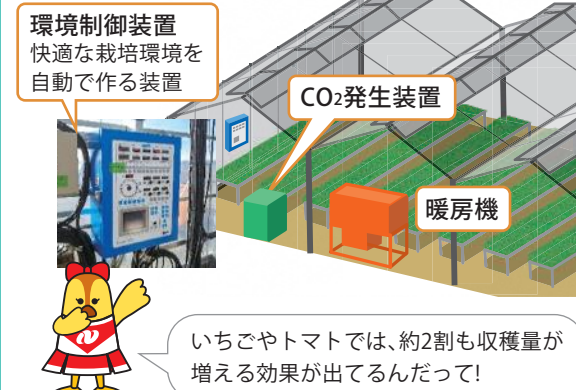
病害虫の発生や農薬を散布する時期を予測

ドローンによる農薬散布

環境制御技術の導入

●施設内の温度や湿度、二酸化炭素(CO₂)の濃度などを自動で制御し、植物が育ちやすい環境を作り出します。

➡快適な栽培環境の下で作物が元気に育ち、収穫量と品質が向上します。



環境制御装置
快適な栽培環境を自動で作る装置

CO₂発生装置

暖房機



いちごやトマトでは、約2割も収穫量が増える効果が出てるんだって！

林業

県産木材の生産・流通・販売を促進

近年、公共建築物への木材利用や木質バイオマス*など、新たな用途での木材の活用が進んでいます。豊富な森林資源の循環利用で林業の成長産業化が期待される中、県では、県産木材の生産・流通・販売の促進による“稼げる林業”を目指しています。

※樹木の伐採や造材時に残る枝や葉、製材工場から発生する樹皮やのこ屑など

株式会社西林の取り組み(対馬市厳原町)

対馬市で林業を営む株式会社西林は、徹底した機械化と分業化のもと、木を切り、集め、運ぶという一連の作業を効率的に行い、木材の生産を拡大しました。

5年前と比較して、年間の森林整備面積は約2倍、木材生産量は約5倍に増加するなど、県内トップクラスの“稼げる林業”を実現しています。

その優れた経営が高く評価され、令和元年度全国林業経営推奨行事において、林野庁長官賞を受賞しました。

